

# 三国志を読み解くための ブックリスト

2009.9 山田図書館

千八百年も昔の史実は、大陸で語り継がれ、漢字文化圏に広まり、明王朝の時代に「三国志演義」として、羅貫中により集大成されました。



私たちに馴染み深い、物語としての三国志は、この「三国志演義」世界のもので、今この瞬間も三国志が喚起する世界は広がり続けています。三国志の世界を覗くための道案内になれば幸いです。

## ☆☆三国志の基礎知識☆☆

・三国志の舞台は、今から千八百年前の中国大陸、四百年続いた漢王朝末期の動乱の時代です。

### ①『三国志』（正史）

：陳寿（晋時代の人）によって編纂された、三国時代の正史（歴史書）。魏・呉・蜀三国それぞれの歴史をまとめた「魏書」「呉書」「蜀書」から成る歴史書。これに裴松之が注を施したものを一体として「三国志」とされる。

\*「正史」：中国の各王朝・各時代を記述した、正統な歴史書とされるもの。司馬遷の「史記」から始まって、現在では二十四史が正史とされている。記述は、司馬遷に倣い、紀伝体で編纂されている。

### ②『三国志演義』（「三国志通俗演義」）（以下「演義」）

：羅貫中（明時代の人）によってまとめられた、三国志時代を舞台にした小説。三国志の物語は大変人気があって、これよりずっと古い時代から、民間で語り物として口演されていた。羅貫中はそれらを集大成した。劉備（蜀）を正統に、曹操（魏）を敵役に据えた物語展開や、日本人にも馴染み深いエピソードの多くはこの「演義」に拠るもの。日本でも江戸時代から広く読まれた。

### ③日本人と三国志

：吉川英治氏の「三国志」が日本人には馴染み深い。「演義」に沿った物語展開と独自の解釈で、三国志小説の定番中の定番。

NHKの人形劇「三国志」で、三国志を知った人も多い。川本喜八郎氏のすばらしい人形とともに広く親しまれた。これも、「演義」に沿った内容だった。

マンガでは横山光輝氏の「三国志」（全60巻）がある。膨大な「演義」すべてを描いた超大作。

更に、PCの普及後に（株）光栄が製作した「歴史シミュレーションゲーム 三国志」シリーズは大ヒットし、多くのファンを獲得した。今も続編が製作され、三国志ファンの入り口になっている。

（\*更に興味のある方は『三国志と日本人』（講談社現代新書 雑喉潤／著 2002）をご覧ください。非常に参考になります）

## ☆☆まず読んでみよう・・・是が定番だ！☆☆

・吉川英治 著 『三国志』全8巻 1940-

戦前から読み継がれ、日本人にとっての三国志のイメージを作りあげた、国民的作家の名作。

・柴田錬三郎 著 『三国志 英雄ここにあり』上中下『英雄生きるべきか死すべきか』上中下 1968-

『英雄三国志』1-6（集英社文庫）2004（上記2冊の合本改題）

眠狂四郎シリーズで知られた著者による、柴錬三国志の決定版。

- ・陳舜臣 著 『秘本三国志』 全6巻 1974－  
曹操と劉備、対立しあう二人の間には実は……。中国史に精通した著者の、新しい視点による三国志。
- ・三好徹 著 『興亡三国志』 全5巻 1997  
青年マンガ誌に長期小説連載された、異色の三国志。吉川三国志とは一味違った人物像を描き出す三国志小説の新定番。
- ・北方謙三 『三国志』 全13巻 1996－1998  
『三国志読本 北方三国志別巻 (ハルキ文庫 時代小説文庫)』 2002  
作者独特の切り口で描き出される北方三国志。
- ・宮城谷昌光 著 『三国志』 第1巻－第7巻 2004－  
「正史」を下敷きに 独特の史観から描き出される新しい「三国志」。
- ・横山光輝 『三国志』 全60巻  
三国志マンガの金字塔。膨大な演義世界を最初から最後まで描ききった超大作。
- ・王欣太 『蒼天航路』 全36巻 李学仁／原案, 王欣太／著  
曹操を主人公に、圧倒的画力で描き出される三国志マンガの新定番。
- ・井波律子 著 『三国志演義』(岩波新書) 岩波書店 1994  
三国志について、真面目に知りたい人のための最良の入門書。

番外

- 『反三国志』 周大荒／著 講談社 1991  
第二次世界大戦中に中国人によって書かれた、仰天の大逆転三国志。

### ☆三国志小説・・・よりどりみどり☆

- ・赤羽堯 『曹操伝三国志異聞』 文芸春秋 1995
- ・榎本捨三 『新・三国志』 前・後篇 秀英書房 1979
- ・宇佐美浩然 『中国遊侠伝 三国志異聞』 1, 2 (歴史群像新書) 学習研究社 2002
- ・江森備 『天の華・地の風－私説三国志』 全10巻 光風社出版／ブッキング 1986－
- ・草森紳一 『少年曹操』 文芸春秋 1999
- ・酒見賢一 『泣き虫羽虫諸葛孔明』 第1部・第2部 文芸春秋 2004, 2007
- ・さだまさし 『三国志英雄伝 落談まさし版』 (文春文庫)文芸春秋 2002
- ・柴田錬三郎 『新編三国志』 春陽堂 1958
- ・瀬戸竜哉 『三国志の女たち』 G. B. 2008. 11
- ・立石優 『諸葛孔明』 (幻冬舎文庫) 幻冬舎 2001. 03
- ・谷崎旭寿 『三国志』 全4巻 新人物往来社 1983  
『褒姒が笑った－史記・三国志の人びと』 新人物往来社 1983
- ・陳舜臣 『諸葛孔明』 上下 中央公論社 1991  
『曹操 魏の曹一族』 上下 中央公論社 1998  
『曹操残夢 魏の曹一族』 中央公論社 2005
- ・塚本青史 『三国志曹操伝』 上中下 光栄 2007
- ・童門冬二 『三国志・赤壁の戦い 天下分け目の群雄大決戦』 PHP 研究所 2008  
『新釈三国志』 上下 日本経済新聞社 1995
- ・伴野朗 『孫策の死』 集英社 1989

- 『三国志英傑列伝』 有楽出版社 1997
- 『呉・三国志』全5巻 集英社 2001
- ・馬場祥弘 『大地の霸王 超釈三国志』1-2 実業之日本社 1996
- ・藤水名子 『赤壁の宴』 講談社 1994
- 『公子風狂 三国志外伝曹操をめぐる六つの短篇』 講談社 2001
- ・三好徹 『三国志外伝』 光文社 2003
- 『三国志傑物伝』 光文社 2006
- ・鄭飛石 『小説三国志』 上中下 町田富男／訳 光文社 1993
- 韓国人作家の描く三国志
- \*いわゆる「歴史 if ノベル」はリストから省くか、サブカルチャーに入れてあります。

**★三国志マンガ★**（\*他にも多数の作品がありますが、名古屋市所蔵のものだけをあげてあります）

- 『三国志』全10巻 園田光慶／画, 久保田千太郎／作 講談社 1995
- 『マンガ三国志』 上中下 とみ新蔵／作・画 三笠書房 1998
- 『マンガ三国志・水滸伝の英傑たち』(Kodansha sophia books) 蔡志忠／作画 講談社 2001

**★サブカルチャー★**

- 光栄: 歴史シミュレーションゲーム『三國志』シリーズ
- 『三國志ハンドブック(シブサワ・コウシリーズ 3)』 シブサワ・コウ／編 光栄 1989
- 『超・三國志』 上中下 (歴史ifノベルズ) 周大荒／[原著] 今戸榮一／訳編 光栄 1991
- 奇書『反三国志』の編訳版。こちらよりは『反三国志』をお勧めします
- 『超・三国志—周瑜伝— “周瑜伝奇”より』 梁仁／[原著] 今戸榮一／訳編 光栄 1992
- 『三國志孔明死せず』(歴史ifノベルズ) 伴野朗／著 光栄 1992
- 『放浪の子竜—趙雲』(三國志武将列伝) 大場惑／著 光栄 1992
- 『超・三國志—桃園結義』(歴史外伝シリーズ) 今戸榮一／著 光栄 1993
- 『人中の鬼神・呂布』 中井紀夫／著 (三國志武将列伝) 光栄 1993
- 『超・三國志—赤壁秘話 呉臣編』(歴史外伝シリーズ) 今戸榮一／著 光栄 1993
- 『超・三國志—赤壁秘話 曹操編』(歴史外伝シリーズ) 今戸榮一／著 光栄 1993
- 『天翔の騎士・趙雲』 大場惑／著 (三国志武将列伝) 光栄 1993
- 『青竜の旅人—関羽』(三国志武将列伝) 菊池道人／著 光栄 1993
- 『三国志解体新書』 歴史ファンワールド編集部／編 光栄 1997
- 『三国志的眞実—知らなかった劉備&孔明60のナゾ』
- (歴史ポケットシリーズ) 光栄出版部／編 光栄 1998
- 『爆笑三國志 歴史人物笑史』 シブサワ・コウ／編 光栄 1991
- 『爆笑三国志人物事典』(歴史人物笑史) シブサワコウ／編 光栄 1998
- 『三国志正史VS演義』(歴史ポケットシリーズ) コーエー出版部／編 光栄 1998
- 『小説三国志の謎』(光栄カルト倶楽部) 黄巾イレギュラーズ／編 光栄 1993
- 『三国志 僕たちの英雄伝説』(別冊宝島) 宝島社 2005

## ☆☆原典・翻訳・・・三国志オリジナルの世界とは☆☆

### 【三国志演義】 羅貫中 [作]

#### ♪小川環樹 訳

『三国志－三国演義』1－10 岩波文庫 1953－1973 小川環樹 訳 金田純一郎 訳

『三国志－通俗演義』小川環樹・武部利男 共訳 岩波書店 1968

『完訳三国志』1－8 小川環樹・金田純一郎 訳 岩波書店 1982

#### ♪立間祥介 訳

『三国志演義』上・下 (中国古典文学全集8, 9) 立間祥介 訳 平凡社 1958

『三国志演義』上・下 (奇書シリーズ) 立間祥介 訳 平凡社 1972

『中国古典文学大系 26, 27 :三国志演義 上・下』立間祥介 訳 平凡社 1982

『三国志』全7巻 立間祥介 訳 平凡社 1989

『三国志』愛蔵版 立間祥介／抄訳 プレジデント社 1997

#### ♪村上知行 訳

『三国志』全3巻 村上知行 訳 河出書房 1968

『三国志』全5巻 村上知行 訳 角川書店 1972

『ザ・三国志－三国志全訳全一冊』村上知行 訳 第三書館 1987

『完訳 三国志』全5巻 (光文社文庫) 村上知行 訳 光文社 2004

#### ♪井波律子 訳

『三国志演義』全7巻 (ちくま文庫) 井波律子 訳 筑摩書房 2002

#### ♪榎本捨三 訳

『新・三国志』前・後 榎本捨三 訳 新人物往来社 1970

#### ♪渡辺精一 訳

『三国志英雄伝』(地球人ライブラリー) 渡辺精一／訳・解説 小学館 1994

『〈新訳〉三国志』天の巻・地の巻・人の巻 渡辺精一 訳 講談社 2000

#### ♪その他

湖南文山(江戸・元禄時代の訳本)

『通俗三国志』湖南文山／訳 有朋堂文庫 1912

『絵本通俗三国志』第1巻－12巻 湖南文山／文 第三文明社 1983

『演義三国志図鑑』[羅貫中／原著], 葛飾戴斗／筆 (底本:絵本通俗三国志) 1961

『画本三国志』全11巻 監訳:陳舜臣 中央公論社 1983

#### ♪参考文献・事典類

『三国志人物事典』渡辺精一／著 講談社 1989

『三国志演義大事典』沈伯俊・譚良嘯／編著 立間祥介／[ほか]編訳 潮出版社 1996

『三国志人物鑑定事典 キーワードで探る英雄たちの素顔』渡辺精一／著 学習研究社 1998

『三国志全人物事典』瀬戸竜哉／著 G. B. 2007

『三国志名言集』井波律子／著 岩波書店 2005

江戸時代のベストセラー

### 「絵本通俗三国志」

日本で三国志が翻訳されたのは、元禄時代(1690年ごろ)です。訳した人は「湖南文山」という京都の僧侶ですが、詳しいことは分かっていません。この訳本が「通俗三国志」で、知識人の間で読まれました。

それから約150年後の天保時代(1830年ごろ)に、葛飾戴斗が挿絵をつけた「絵本通俗三国志」が刊行されると、読者は庶民まで広がって、大ベストセラーになりました。 参考:「三国志と日本人」 雑喉潤 著

## 【正史・三国志】 陳寿[撰] 裴松之[注]

### ♪原本

- 『三國志』 第1冊～第5冊 晋・陳寿／[撰] 裴松之／[注] 中華書局 1959  
『和刻本正史 8 三国志1 :魏書(上)』 陳寿／撰 解題:長沢規矩也 汲古書院  
『和刻本正史 9 三国志2 :魏書(下) 蜀書 吳書』 陳寿／撰 解題:長沢規矩也 汲古書院

### ♪訳本

- 『中国の古典シリーズ3 漢書・後漢書・三国志列伝選』 本田濟 訳 平凡社 1973  
『中国古典文学大系 13:漢書・後漢書・三国志列伝選』 本田濟 訳 平凡社 1983  
『三国志』 全5巻 監修:松枝茂夫、立間祥介 徳間書店 1979  
1:転形期の形成 丸山松幸・中村愿／訳 2:覇者の行動学 和田武司・大石智良／訳  
3:自立への構想 市川宏・山谷弘之／訳 4:完結なき世界 守屋洋・竹内良雄／訳  
5:不服従の思想 花村豊生・丹羽隼兵／訳  
『東アジア古代史—三国志夷狄伝・訳』 ヒデミ・フミノ／訳 新人物往来社 1986  
『正史三国志』 全8巻 (ちくま学芸文庫) 井波律子[ほか]訳 筑摩書房 1993  
『正史三国志英傑伝』 全4巻 徳間書店中国の思想刊行委員会／編訳 徳間書店 1994

### ♪参考文献・事典類

- 『三国志全人名事典—正史三国志英傑伝別巻』  
徳間書店中国の思想刊行委員会／編著 徳間書店 1994  
『三国志ハンドブック』 竹内良雄／編 陳舜臣／監修 三省堂 1998  
『三国志人物事典 (Truth in fantasy)』 小出文彦／監修 新紀元社 1999

## ☆☆児童向けの三国志 ～絵本から伝記まで～ ☆☆

### ～物語～

- 『少年少女世界の名作文学22 東洋編 :三国志』 土屋由岐雄／文 小学館 1976  
『三国志』 上中下 (岩波少年文庫) 羅貫中／作 小川環樹・武部利男／編訳 岩波書店 1980  
『三国志 中国古典』 改訂 (少年少女世界の名作) 柴田錬三郎／著 偕成社 1982  
『三国志』 上・下 (中国の古典文学 9, 10) 羅貫中／[著] 丹羽隼兵・守屋洋 訳 さえら書房 1984  
『三国志』 (講談社青い鳥文庫) 羅貫中 著 駒田信二 訳・解説 井上洋介／絵 講談社 1985  
『少年少女世界文学館 24 : 三国志』 羅貫中／著 駒田信二／訳 講談社 1986  
『三国志』 全3巻 羅貫中／作 竹崎有斐／文 白川三雄／絵 あかね書房 1989  
『三国志 大いなる飛翔』 (映画ストーリーブック) 西園悟／文 偕成社 1990  
『子ども版三国志』 全10巻 羅貫中／[原著] 生越嘉治／文 あすなろ書房 1990  
『呉書三国志』 全3巻 (斉藤洋・歴史英雄シリーズ) 斉藤洋／作 モンキー・パンチ／絵 講談社 1990  
『三国志』 全3巻 (講談社KK文庫) 羅貫中／原作 斉藤洋／文 講談社 1991  
『三国志』 (子どものための世界文学の森) 羅貫中／作 三上修平／訳 小林一雄／絵 集英社 1995  
『三国志』 全5巻 [羅貫中／原作] 三田村信行／文 若菜等／絵 ポプラ社 2002  
『三国志』 全5巻 [羅貫中／作] 渡辺仙州／編著 佐竹美保／絵 偕成社 2005  
『三国志』 1～ 小前亮／文 中山けいしよー／画 理論社 2009—

## ～絵本～

- 『三国志絵巻』 全12巻 王矛／[ほか]文, 孫彬／[ほか]絵, あずまたつお／訳 岩崎書店 1990  
『十万本の矢 三国志絵本』 唐亜明／文 于大武／絵 岩波書店 1997

## ～伝記・解説～

- 『諸葛孔明－「三国志」の名軍師』(講談社火の鳥伝記文庫) 桜井信夫／[著] 講談社 1992  
『劉備・関羽・張飛－三国志「蜀」の三英雄』(講談社火の鳥伝記文庫) 桜井信夫／[著] 講談社 1993  
『三国志おもしろ事典』(講談社KK文庫) 渡辺精一／文 講談社 1992  
『三国志－わかる!くわしい!!おもしろい!!!決定版』(ムテキ・ブックス) 学習研究社 1993  
『すーぱークイズ三国志』(講談社KK文庫) このみひかる／作 山田えいし／絵 講談社 1993  
『なぜなぜ三国志』(ともだちにはないしょだよ) 熊谷さとし／作・絵 ポプラ社 1993  
『三国志事典』(岩波ジュニア新書) 立間祥介・丹羽隼兵／著 岩波書店 1994  
『三国志早わかりハンドブック』渡辺仙州／編著 佐竹美保／絵 偕成社 2005.04  
『三国志群雄ビジュアル百科』渡邊義浩／監修 ポプラ社 2008  
『中国の歴史 3 : 三国志と群雄の興亡』(集英社版・学習漫画) 貝塚ひろし／漫画 集英社 1987  
『世界の歴史 4 : 三国志の英雄と隋・唐のかがやき』(集英社版・学習漫画) 集英社 2002

## ☆☆演義・正史 解説・研究・・・三国志世界をもっと深く楽しむために ☆☆

### 【演義】

#### 概説

- 『三国志物語－原典を味わう』 今西凱夫／著 日本放送出版協会 1994  
『三国志考証学』 李殿元・李紹先／著 和田武司／訳 講談社 1996  
『真説三国志』 坂口和澄／著 小学館 1997  
『読み忘れ三国志』 荒俣宏／著 小学館 2002  
『「急所」で読む中国の古典』 小川義男／著 ベストセラーズ 2004  
『三国志の英傑たち』(ハルキ文庫 時代小説文庫) 北方謙三／著 角川春樹事務所 2006  
『三国志演義』(図解雑学・絵と文章でわかりやすい!) 渡邊義浩／著 ナツメ社 2007

#### 紀行

- 『中国古典紀行 1 三国志の旅』 監修:陳舜臣 講談社 1981  
『洛神の賦 三国志の世界を訪ねる旅』 伊佐千尋／著 文芸春秋 2001

#### 研究書

- 『三国志実録』 吉川幸次郎 筑摩書房 1962  
『三曹資料彙編』 河北師範學院中文系古典文學教研組／編 中華書局 1980  
『三国志演義の世界』(東方選書 25) 金文京／著 東方書店 1993  
『図説・読み切り年画・三国志』 王樹村, 立間祥介／編著 集英社 1994  
『詩歌三国志』(新潮選書) 松浦友久／著 新潮社 1998  
『三国志 中国伝説のなかの英傑』 殷占堂／編著 岩崎芸術社 1999  
『三国志と日本人』(講談社現代新書) 雑喉潤／著 講談社 2002  
『中国の英雄豪傑を読む 『三国志演義』から武俠小説まで』(あじあブックス)  
鈴木陽一／編 大修館書店 2002  
『中国の五大小説』上・下 (岩波新書) 井波律子／著 岩波書店 2008

- 『「三国志」漢詩紀行』（集英社新書）八木章好／著 集英社 2009
- 『中国古典文学挿画集成』1上下：三国志演義 滝本弘之／編 遊子館 2003
- 『中国古典文学挿画集成』6：全相平話五種／三国志演義（宝翰楼本）  
滝本弘之／編 遊子館 2009

## その他

- 『川本喜八郎三国志百態』川本喜八郎／著 立間祥介／監修 ぱるぷ 1984
- 『三国志大研究－カルトクイズQA296』早稲田大学三国志研究会／著 講談社 1993
- 『逆転の三国志－Ifストーリーで読む英傑伝！』（Ginga books 1001）銀河出版 1993
- 『三国志中国語入門－ドラマ「三国演義」より』アспект編集部／著 アспект 1997
- 『クイズ三国志の王様』三ノ輪仁一／著 光荣 2006
- 『三国志検定 群雄の乱世に知力で挑め！』坂口和澄／著 青春出版社 2006
- 『レッドクリフ公式ビジュアルBOOK』『1週間』編集部／編 講談社 2008
- 『レッドクリフPart2 公式ビジュアルBOOK』『1週間』編集部／編 講談社 2009

## 【正史】

### 入門・概説

- 『三国志入門』立間祥介 著 日本文芸社 1975
- 『人間三国志』第1巻－第6巻 林田慎之助／著 集英社 1989
- 『読切り三国志』井波律子／著 筑摩書房 1989
- 『三国志』庄威／著 三一書房 1990. 20cm 306p
- 『三国志』上下巻（歴史群像シリーズ）学習研究社 1990
- 『群雄三国志－諸葛孔明と勇将、激闘の軌跡』（歴史群像シリーズ）学習研究社 1992
- 『三国志故事物語』駒田信二／著 河出書房新社 1993
- 『大三国志－中原に覇を競った英傑たち』（ビッグマンスペシャル）世界文化社 1995
- 『三国志新聞 歴史スcoop』三国志新聞編纂委員会／編 日本文芸社 1996
- 『真三国志』1－3（歴史群像〈中国戦史〉シリーズ）学習研究社 1998
- 『三国志』（図解雑学・絵と文章でわかりやすい！）渡邊義浩／著 ナツメ社 2000
- 『図説三国志の世界』劉【ウェイ】／編著 大修館書店 2001
- 『面白いほどよくわかる三国志 英雄・豪傑たちの激闘の軌跡と三国興亡のすべて』  
（学校で教えない教科書）神保竜太／著 日本文芸社 2001
- 『早わかり〈三国志〉の常識100 中原制覇をめぐる群雄たちの生きざま』  
（日文新書）松本一男／著 日本文芸社 2002
- 『三国志英雄伝』（別巻その時歴史が動いた）NHK取材班／編 KTC中央出版 2002
- 『三国志新聞 三国時代の激闘をまるごとスcoop』三国志新聞編纂委員会／編 日本文芸社 2003
- 『三国志が面白いほどわかる本』三宅崇広／著 中経出版 2004
- 『図解三国志 ひと目でわかる！』川浦治明／著 学習研究社 2005
- 『もう一度学びたい三国志』渡辺精一／監修 西東社 2005
- 『三国志素顔の英雄たち』上巻・下巻 易中天／著 富山房インターナショナル 2008
- 『「三国志」武将34選』（PHP文庫）渡邊義浩／著 PHP研究所 2009

## 姉妹都市「南京」と「呉」の建業

南京市は、江蘇省の省都で、長江下流の南部に位置します。都市の歴史は約2400年前



の戦国時代中期に始まり、呉や明など10の王朝が首都をおいた古都です。三国志の時代には、呉の都がおかれ「建業」と呼ばれていました。

名古屋市と南京市は、昭和53年12月に姉妹都市提携を結んでいます。

## 紀行

『三国志世界を行く』 雑喉潤／著 徳間書店 1987

『三国志－英雄の舞台』 川田秀文／写真, 寺尾善雄／文 旺文社 1987

『三国志の風景－カラー版写真紀行』（岩波新書）小松健一／著 岩波書店 1995

『『三国志』歴史紀行』 龔学孺／著 人民中国雑誌社日本語部／訳 尚文社ジャパン 1994

『『三国志』の旅－英雄たちの足跡を訪ねて』 村山孚／著 徳間書店 1997

『三国志の大地』 雑喉潤／著 竹内書店新社 2001

『三国志の舞台』（世界歴史の旅）渡邊義浩／著 山川出版社 2004

『絵本三国志』 安野光雅／著 朝日新聞出版 2008

## 研究書

『『三国志』の世界－孔明と仲達』 狩野直禎 清水書院 1971

『戦－三国志にみる勝者と敗者』 坂口和澄 著 日中出版 1985

『三国志の英傑』（講談社現代新書）竹田晃／著 講談社 1990

『『三国志』の迷宮 儒教への反抗有徳の仮面』（文春新書）山口久和／著 文芸春秋 1999

『三国志がみた倭人たち 魏志倭人伝の考古学』 設楽博己／編 山川出版社 2001

『『三国志』を読む』（岩波セミナーブックス）井波律子／著 岩波書店 2004

『中国の歴史 04:三国志の世界』 礪波護／[ほか]編集委員 講談社 2005

『正史三国志群雄銘銘伝』 坂口和澄／著 光人社 2005

『三国志曼荼羅』（岩波現代文庫 文芸）井波律子／著 岩波書店 2007

『環境から解く古代中国』（あじあブックス）原宗子／著 大修館書店 2009

## その他

『三国志－勝つべき者が勝つ要諦』 守屋洋 ダイヤモンド社 1982

『三国志の英雄たち』 守屋洋 他 新人物往来社 1982

『『三国志』の知恵』（講談社現代新書） 狩野直禎 著 講談社 1985

『男子志(こころざし)を立つべし－三国志』 安岡正篤 ほか著 プレジデント社 1985

『三国志と人間学』 安岡正篤／著 福村出版 1987

『三国志』史話』 林亮／著 立風書房 1987

『『三国志』に学ぶ興亡の原理』 守屋洋／著 パンリサーチインスティテュート 1988

『三国志軍事ガイド』 篠田耕一／著 新紀元社 1993

『三国志風と雲と龍－曹操と諸葛孔明』 林田慎之助／著 集英社 1994

『三国志人物縦横談』 高島俊男／著 大修館書店 1994

『三国志－男の器量の磨きかた』 加来耕三／著 潮出版社 1997

『『三国志』男の頭の使い方』 守屋洋／著 三笠書房 1997

『三国志天下三分の計のうらおもて－正史「三国志」を読み直す』 伴野朗／著 有楽出版社 1998

- 『よみがえる三国志伝説 新しい「三国志」の世界が見える本』（別冊宝島）宝島社 1998
- 『三国志知れば知るほど』市川宏／監修 実業之日本社 1999
- 『三国志群雄173人採点データファイル』新人物往来社／編 新人物往来社 2000
- 『歴史地図で読み解く三国志』（プレイブックスインテリジェンス）武光誠／著 青春出版社 2003
- 『英傑たちの三国志』伴野朗／著 日本放送出版協会 2003
- 『「三国志」合戦事典 英雄たちの激闘全ガイド』（PHP文庫）柘植久慶／著 PHP研究所 2005
- 『三国志人を動かす極意』加来耕三／著 実業之日本社 2005
- 『マンガ中国の歴史 2 諸葛孔明と三国志』（中公文庫）陳舜臣／監修 中央公論新社 2006
- 『三国志人物外伝 亡国は男の意地の見せ所』（平凡社新書）坂口和澄／著 平凡社 2006
- 『兵法三国志 これが中国人だ』（PHP文庫）大橋武夫／著 PHP研究所 2006
- 『三国志誕生 真のヒーローは誰か』尾鷲卓彦／著 影書房 2006
- 『三国志男』さくら剛／著 サンクチュアリ・パブリッシング 2008
- 『三国志談義』安野光雅／著 平凡社 2009
- 『三国志 赤壁伝説』満田剛／著 白帝社 2009

## ☆☆個人伝記・研究・解説☆☆

### ○曹操（魏・武帝）

- 『三国志曹操伝』中村愿 著 新人物往来社 1986
- 『曹操一矛を横たえて詩を賦す』（中国の英傑4）川合康三 著 集英社 1986
- 『霸道三国志－曹操の壮心やまず』雑喉潤／著 東京書籍 1993
- 『曹操・悪役の人生論－野望を抱き、したたかに生きよ』松本一男 著 PHP研究所 1994
- 『三国志の英傑曹操伝』守屋洋／著 総合法令出版 1995
- 『曹操－三国志の奸雄』（講談社学術文庫）竹田晃[著] 講談社 1996
- 『曹操－魏の武帝』石井仁 著 新人物往来社 2000
- 『曹操－三国志の真の主人公』（刀水歴史全書）堀敏一 著 刀水書房 2001
- 『三国志曹操孟徳伝 「戦う前に勝利する」曹操の実像と実力に迫る！』（別冊宝島）宝島社 2003

### ○諸葛亮（諸葛孔明）

- 『諸葛孔明』（中国人物叢書）狩野直禎／著 人物往来社 1966
- 『「三国志」の世界 孔明と仲達』狩野直禎／著 清水書院 1971
- 『諸葛孔明－三国志とその時代』宮川尚志 桃源社 1978
- 『諸葛孔明 中国英雄伝』狩野直禎／著 新人物往来社 1981
- 『諸葛孔明の世界』加地伸行／編 新人物往来社 1983
- 『諸葛孔明』（現代視点・中国の群像）旺文社／編 旺文社 1985
- 『諸葛孔明』（中公文庫）植村清二／著 中央公論社 1985
- 『諸葛孔明 泣いて馬謖を斬る』（中国の英傑）林田慎之助／著 集英社 1986
- 『諸葛孔明の生涯』寺尾善雄／著 旺文社 1986
- 『諸葛孔明 不世出の軍師の機略縦横』（歴史と人間学シリーズ）会田雄次／他著 プレジデント社 1989
- 『諸葛孔明－三国志の英雄たち』（岩波新書）立間祥介／著 岩波書店 1990

- 『実説諸葛孔明－「三国志」の英雄 ある天才軍師の生涯』 守屋洋／著 PHP研究所 1990  
『《史伝》諸葛孔明』 章映閣／著 村山孚／編訳 徳間書店 1991  
『諸葛孔明 影の旋律』 渡辺精一／著 東京書籍 1992  
『三国志諸葛孔明外伝』 今戸榮一／著 新人物往来社 1992  
『三国志を行(い)く 諸葛孔明篇』(とんぼの本) 井波律子, 山口直樹／著 新潮社 1995  
『〈三国志の謎〉徹底検証－諸葛孔明の真実』 加来耕三／[著] 講談社 1997

## ○その他

- 『中国武将伝－史記・三国志の英雄』 小田岳夫 人物往来社 1965  
『曹操・劉備・孫権』(現代視点・中国の群像) 旺文社／編 旺文社 1985  
『関羽伝』(新潮選書) 今泉恂之介／著 新潮社 2000  
『中国詩人選集 3 曹植』 吉川幸次郎・小川環樹／編集・校閲 岩波書店 1958  
『曹植と屈原』 小守郁子／著 小守郁子 制作:丸善名古屋出版サービスセンター 1989  
『劉備－「三国志」随一の徳望をもつ男』(歴史と人間学シリーズ)  
守屋洋／[ほか]著 プレジデント社 1990

### 神様になった「関羽」

三国志の名将「関羽」は、その死後神として信仰されました。明時代には、皇帝から「三界伏魔大帝神威遠震天尊関聖帝君」という神号を追贈されています。

旧くは武神として、また関羽が義理や信義に厚い人物だったこと、元は塩の密売業者で算盤や大福帳を開発したという伝説から現在は主に商業の神として信仰されています。日本でも横浜・神戸などの中華街に、関羽の祭られた関帝廟があります。



関帝廟(神戸)